

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 5 月 22 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	佐藤 侑太郎

<b>1. 派遣国・場所</b> (○○国、○○地域)
日本、鹿児島県・屋久島
<b>2. 研究課題名</b> (○○の調査、および○○での実験)
ヤクシマザル・ヤクシカの観察、およびヤクシマザル糞サンプルの収集
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 5 月 13 日 ~ 平成 29 年 5 月 19 日 (7 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
京都大学 霊長類研究所、半谷吾郎 准教授
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<b>目的</b> 本出張は、鹿児島県屋久島に生息するヤクシマザル・ヤクシカの観察、およびヤクシマザルの糞サンプルの収集を目的に行われた。ルートセンサス法によって、ヤクシマザルやヤクシカの分布、植生や標高との関連を調査した。収集した糞サンプルは、京都で行われるゲノム科学実習に用いられる予定である。
<b>概要</b> 5月13日(土)午前に屋久島へ出発した。13日(土)午後は、西部林道を見学した。14日(日)から16日(火)まで島内各所においてフィールドワークを行った。17日(水)、18日(木)は、屋久島観察ステーションにて、データ解析、プレゼンテーションを行った。19日(金)午前に屋久島観察ステーションを出発、白谷雲水峡を散策した後、午後の飛行機で京都へ戻った。
<b>所感</b> 屋久島にのみ生息する野生ヤクシマザル(ニホンザル亜種)を観察するのは本実習が初めてであった。毛の長さ、顔つきが他のニホンザルとは異なる印象を受けた(図1)。自然豊かな屋久島に生息するヤクシマザルは、森林部の奥に生息しヒトを避けると予想していたが、一部のサルはヒトによく慣れていた(図2)。観光客による餌付けの影響かもしれない。 屋久島にはサルの集団が複数生息することが知られている。サルが異集団と遭遇した際にどのように振る舞うのか観察できることを期待していたが、本実習中に集団間の交渉をみることはできなかった。しかし、老眼と思われるサルなどサルの興味深い行動を観察することができた(図3)。

図1. ヤクシマザルは目が吊り上がっており、毛足が長い印象を受けた(5月14日撮影)。



図 2. ヒトに向かって威嚇するサル（左）と空き瓶を持つサル（右）。ヒトから食べ物を得られることを知っているのかもしれない（5月14日撮影）。



図 3. 毛づくろいをする手元と目の位置が離れていることから、ヒトにおける老眼の症状をもっていると考えられる（左）。この成体メスには、相手の毛を掻き分ける動作と自分の頭部を触る動作を繰り返す癖があった（右）（5月14日撮影）。

ルートセンサス法による観察と並行して、糞サンプルの収集を行った。性別の判定や性格関連遺伝子に関する解析を行うためである。糞は、舗装された道路上ではよく目立つため容易に見えたが、森林部では地面と同化してしまうため、検出が極めて困難であった（図4）。

ヤクシカ（ニホンジカ亜種）は、他のニホンジカと比較して身体が一回り小さかった。また、テレメトリーを装着した個体を数頭観察した。ヤクシカの分布や食性、社会行動などの研究がされているとのことであった。特に、シカを対象とした社会行動の研究は、大変興味深いと思った。



図 4. 森の中で発見した糞。地面は土や葉で覆われており、コンクリートで舗装された道よりも糞の検出が困難であった（5月15日撮影）。

17、18日はデータ解析とプレゼンテーションを行った。GPSデータの解析は比較的難しく、時間を要した。そのため、限られた時間の中でプレゼンテーションの準備を行う必要があった。作業は大変ではあったが、チームでの連携により乗り切った。本実習を通じて、協力しあうことの重要性を改めて認識した。

## 6. その他（特記事項など）

本実習中、レクチャーのみなさまには生活面や技術面において多大なご支援をいただいた。中でもサル・シカ班の担当であった霊長類研究所 半谷吾郎准教授、本郷峻博士、栗原洋介博士、本田剛章氏には特にお世話になった。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、ステーション滞在中に食事をご用意いただいたスタッフの方に感謝申し上げます。

屋久島実習の他参加者のみなさまにおいては、実習のあらゆる場面でご協力いただいた。特に、サル・シカ班であったマレーシアサインズ大学 生物科学部 Christopher Chai Thiam Wong 氏、中山大学 霊長類・進化人類学研究室 Danhe Yang 氏、京都大学理学研究科 岡桃子氏、楊木萌氏、大坪卓氏、櫻井貴之氏、川田美風氏に感謝申し上げます。